

私は常々、「妊娠・出産・育児の価値を上げたい」と考えています。これは私の、周産期医療に関わってきたさまざまな経験から得た結論です。病院に勤務していた頃は、連日多くのハイリスク分娩に立ち合いました。その中で分娩の一瞬一瞬に向き合いながらも、その場の処置の最中にも「この次はあの患者さんで、その次

母子ともに危険の大きい周産期医療で技術と経験を磨く

私はもともと、周産期医療を扱う周産期医療センターに在籍していました。周産期医療とは、妊娠二十二週から出生後七日未満の母体や胎児・新生児を対象とする医療を指すのですが、この時期は母体にも胎児・新生児にも、生命に関わるトラブルが起こる可能性が高いのです。万一何ごとかあれば、すぐに適切な救急対応を行わねばなりません。そのため私もハイリスク妊娠・分娩を手がける病院で腕を磨き、産科救急インストラクターとして産科救急に関する対応マニュアルをまとめるなどの経験を重ねてきました。このような経緯で、大阪府都島にENAレディースクリニックを開院する運びとなりました。このように、ちなみにENAとはギリシャ語で数字の「一」を表し、同時に母親のお腹の中で胎児を守る「胞衣^{えい}」も意味します。妊娠されている女性とご家族にとって宝物である胎児を包み、守る存在でありたい。そうした願いが込められています。

妊娠・出産・育児の価値を高めるためには、どうするか

私は常々、「妊娠・出産・育児の価値を上げたい」と考えています。これは私の、周産期医療に関わってきたさまざまな経験から得た結論です。病院に勤務していた頃は、連日多くのハイリスク分娩に立ち合いました。その中で分娩の一瞬一瞬に向き合いながらも、その場の処置の最中にも「この次はあの患者さんで、その次



15

山田 一貴

医療法人貴誕会 ENAレディースクリニック 院長

「明日できることは明日する」

PROFILE

山田 一貴 (やまだ かずたか)
複数の総合・地域周産期母子医療センターでハイリスク妊娠・ハイリスク分娩の診療に従事。滋賀医科大学医学部附属病院では、同院初の胎児心エコー認証医として胎児診断に携わる。公立甲賀病院 産婦人科医長、滋賀医科大学医学部附属病院 非常勤講師、特任助教を歴任。2022年、医療法人貴誕会 ENAレディースクリニック 理事長兼院長。

INFORMATION

医療法人貴誕会
ENAレディースクリニック
〒534-0014
大阪府大阪市都島区都島北通1-22-10
TEL 06-6921-3313
<https://ena-lc.com/>

は……」という具合に、その瞬間や、その場のこと以外の診療全体のことでも考えていました。ですが妊娠されている女性とご家族にとっては、妊娠・出産は一生にそう何度もないイベントです。何かしらのリスクを抱えたハイリスク妊娠・分娩であれば、なおさらのことです。

その大切な瞬間に、自分は本当に真摯に向き合っているのか。このままではいけないのではないか。これは私が独立開業した理由のひとつでもあります。

もうひとつ、妊娠・出産の社会的価値が下落していることも大きな理由です。

ほんの数十年前までは、妊娠・出産といえば当事者であるご夫婦だけでなく、一族挙げての一大イベントでした。しかしそうした風潮そのものが、現在では廃れてしまっている。これは少子化のひとつの要因にもつながっているのではないか。

こうした思いがあつて、当院では母子とご家族の大切な瞬間をより大切にし、その価値を高めていきたいと考えています。

患者さまの要望を「どうすれば実現できるか」から考える

私は患者さまとの関わりの中で、どんな要望にもできるだけ「できません」と言わないようにしています。もちろん、医療の安全を最優先にした上での話ですが、たとえば「家族みんなでお産に立ち会いたい」といったご希望があれば、そのために何が必要か、どうすれば実現できるかを一緒に考えるようにしています。できない理由を伝えるよりも、「どうすれば

ばできるか」を考える姿勢を大切にしているのです。

社会の認識を少しずつ変えていくアプローチ

もしも社会全体でもっと出産や子育てを祝福し、応援する雰囲気が醸成されていけば、たとえ時間がかかっても、少子化の解決にもつながるでしょう。私たち医療従事者だけではなく、行政や教育、地域社会とも連携しながら、そうした価値観をつくっていくことが必要です。そのために、私は医療現場からできるアプローチをひとつひとつ丁寧に重ねていきたいと思います。

現状で行っているのは、まず妊娠されている方とご家族を対象としたセミナーを企業とともに開催しています。これは各企業に「妊娠・出産・育児の価値」を認識してもらうきっかけにもなると考えています。

企業によっては長期の育児休暇を設けるなど、出産や子育てに前向きなところもあります。それが「やりたくてもできない」という企業もありますし、そもそもあまり重視していない……という企業もあります。これらの企業に働きかけて社会的な意識を変えていくことは、医療側からできるアプローチでしょう。

また近隣の保育園で妊娠中に育児に関するセミナーを開催し、妊婦さんとご家族への情報提供も行っています。さらに産後ケアホテルを開設するとともに産後ケアホテル事業社とも提携して、産後の女性とのお子さま、ご家族様をケアする体制も整えています。

まだまだやりたいことは多いのですが、当面は同志を増やして、将来的には日本の少子化の改善に貢献したいと考えています。

患者さまと一緒に悩む、一緒に考えることの大切さ

当院は産科の診療メニューが充実しており、一般的な産科医院にはないものだと思っています。これは繰り返しお話ししてきた「妊娠・出産・育児の価値向上」のために、必要だと判断したからです。ですが私は医師が上から目線で答えを出すことは良しとしません。

日々の診療の中で、私が大切にしているのは「一緒に考える」というスタンスです。専門知識を振りかざすのではなく、患者さまやご家族と一緒に悩み、考え、納得できる答えを見つけていく。そうした姿勢が、重要だと考えているからです。妊娠・出産・育児は、その人の人生における非常にセンシティブで重大な出来事です。その価値を丁寧に扱い、少しでも豊かなものにできるよう、私はこれからも多くの患者さんの悩みや願いに向き合い、支え、包み込む存在であり続けたいと思っています。

若いうちは、まず「動いてみる」ことが大切

もしかすると本書の読者の中にも、これから医師を目指す、さらには産科医を目指しているという若い方がいるかもしれません。

そうした方々に対して私が言えることは「とにかく動いてみる」ということです。どんな

理想も、頭の中で想像しているだけでは、何の役にも立ちません。実現に向かって自分が動いて初めて、その理想に価値が生まれ、形が与えられるのです。

失敗したり、周囲とぶつかったりもするでしょう。「理想と現実が違う」などと、言われることもあるでしょう。でも、それで良いのです。理想は現実の道しるべであり、強い理想があるからこそ共感する人たちが集まり、状況が動き出していきます。その中で自分自身の思考も動き、さらに大きな動きへとつながっていきます。

「明日できることは明日する」。一見すると、「とにかく動いてみる」とは相反する言葉、思考のように思われるかもしれません。今日できること、今日ではできなくても明日になればできること、明日にしかできないことを見極めるためには、まず行動してみることが大切です。逆説的になりますが、「今日でなくてもできることは明日すればよい」、「今日しかできないことは今日すべき」だと考えます。

あなたが踏み出す一歩は小さなものかもしれませんが、歩み続けることで見える景色が変わっていきます。いつかそれが大きな成果となって結実することを信じ、恐れず、その一歩を踏み出してください。